



留学生
活動報告

ダイモンさん、アルマムさん ご卒業おめでとうございます！



ダイモンさん、星槎道都大学卒業の日



アルマムさん（後列左から4人目）、星槎国際高校湘南の卒業式で

2026年春は、うれしいニュースが二つ届きました。星槎の大学と高校で、スポーツ奨学生として夢を追い続けてきた留学生二人が、この度晴れて卒業を迎えました。

一人目は、エリトリア国からのスポーツ奨学生、ダイモン・ベルハネ・テスファイさんです。ダイモンさんは2019年3月に来日し、星槎国際高校湘南の陸上競技専攻を卒業後、北海道の星槎道都大学へ進学。大学でも陸上競技を続け、持ち前の粘り強さと勤勉さで、日本企業への就職も決まりました。来日して8年目を迎え、日本の社会で活躍できるほど、日本語でのコミュニケーションも上達しました。

二人目は、マリ共和国からのスポーツ奨学生、アルマム・サリフ・ドゥンピアさんです。2023年5月の来日から3年。星槎国際高校湘南の男子バスケットボール専攻に所属し、その長身を生かしてチームの中心となって活躍しました。日本語学習にも毎日コツコツと励み、卒業時には、日本語能力試験（JLPT）N2に挑戦できるレベルに到達しました。その3年間の真摯な努力が認められ、卒業式では「校長賞」が授与されました。卒業後は星槎道都大学へ進学し、さらなる成長を目指します。



高校時代のダイモンさん、留学生仲間たちと

留学生たちが日本で安心して学び、スポーツに打ち込み、成長できるのは、ひとえに皆様の温かいご支援があったからこそです。改めて、心より感謝申し上げます。彼らのこれからの活躍を、引き続き温かく見守っていただければ幸いです。



大学の陸上部の仲間たちと



来日したばかりのアルマムさん



高校3年生の文化祭で



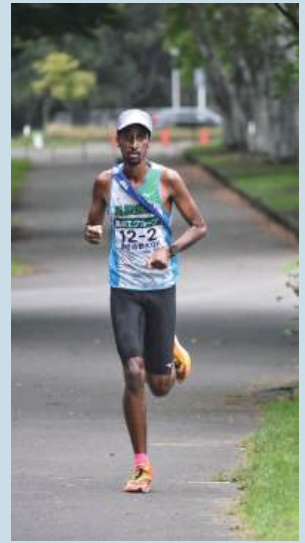
卒業生からのメッセージ

ダイヤモンド・ベルハネ・テスファイ

(2026年3月14日 星槎道都大学 経営学部経営学科 卒業)



今は二つの気持ちがあります。一つは、これから新しい人生がスタートするので、とてもワクワクしています。もう一つは、チームメイトや先生、コーチと過ごした時間がなくなるので、少しさびしい気持ちもあります。日本で学んだ一番大切なことは、どんなに大変でもあきらめないことです。あまり心配しすぎないことも大切だと学びました。一生懸命努力すれば、きっとうまくいくと思うようになりました。陸上や生活を通して自信が付き、精神的にも強くなりました。将来は日本とエリトリアの架け橋になりたいです。また、星槎グループや日本で学んだことを、自分の国でも活かしていきたいと考えています。みなさんの支えがなければ、今ここにいることはできなかったと思います。私の人生に大きな影響を与えてくれた、コーチや先生方、FGCのスタッフのみなさん、そして星槎グループのみなさん、本当にありがとうございました。この経験はどこへ行っても一生忘れません。これからの人生も頑張りますので、応援よろしくをお願いします。



アルマム・サリフ・ドゥンビア

(2026年3月6日 星槎国際高校湘南 男子バスケットボール専攻 卒業)



いま、とても嬉しいし、私だけでなく、先生方とみんなが努力したことの結果を誇りに思っています。ただ、さみしい気持ちもあります。星槎が家族になりました。みんなが優しく、困っているときに私に声をかけてくれました。文化祭のお化け屋敷や体育祭の綱引き、騎馬戦など、たくさん楽しい思い出があります。バスケット部のトレーニングで一番成長したのはメンタル面です。セルフコントロールを学んで、嫌なことがあってもあきらめないようになりました。身体も強く大きくなり、入学から27kg 増えました。また、家族と離れて生活し、自分のことを自分であることを学びました。「やらなきゃいけないことは、やりたい、やりたくないという気持ちではなく、とにかくやった方がいい。その方がいい経験になる」と思って取り組みました。今まで成長できたのはみなさまのおかげで、私や私の家族だけではここまでできませんでした。心から感謝しています。これからもあきらめずに頑張っていきたいです。



マリ共和国より新留学生、 ママドゥさんが来日しました!

3月4日、新たな留学生ママドゥ・コナテ・スウレさんが来日しました。マリ共和国から長い旅を経て、成田空港に到着しました。ママドゥさんは4月から、星槎国際湘南のバスケットボール専攻に入学します。小田原の寮に到着したのは夜遅くでしたが、バスケットボール専攻の寮生たちが皆で暖かく迎えてくれました。同じマリ出身の先輩として、さっそくママドゥさんのサポートしてくれたアルマムさんの姿も印象的でした。ママドゥさんが徐々に日本での生活に慣れ、日本語などの学習面でも充実した日々を送れるよう、世界こども財団も全力でサポートしていきます。



左からアルマムさん、ママドゥさん、バスケット部監督の小村先生



国内での活動

福島県でサッカー交流事業を実施しました

世界子ども財団と星槎グループでは、東日本大震災以降、支援・交流活動を継続しておこなっています。その一環として福島県でのサッカー交流事業も長年継続しており、2026年1月には相馬市での毎年恒例の「星槎奥寺カップ」に加え、大熊町でのサッカー教室も開催しました。

大熊町子どもサッカー教室

1月16日（金）、福島県大熊町の学童に通う小学生たちが参加し、日本サッカー界のレジェンド奥寺康彦さんを講師にお迎えしてサッカー教室を行いました。また、地元の女子チームもサポートとしてご協力いただきました。参加した子どもたちの中には、昨年当財団が主催した夏のキャンプに来てくれた子もあり、嬉しい再会となりました。

当日は、サッカーをあまり経験したことがない児童も多かったため、手でボールをついて歩いたりなど、まずはボールに親しむところからスタートしました。その他にもドリブルやシュートの練習、最後には大人も子どもたちに交ざってゲームを楽しみました。

インフルエンザ流行の影響により、予定より少ない人数での開催となりましたが、参加した子どもたちは元気いっぱい、地域のみなさんと一緒に楽しんでいました。



参加した大熊町の小学生達



奥寺康彦さんからの指導



地元の女子チームもサポート

相馬市「星槎奥寺カップ」

翌日の1月17日（土）には、相馬市の光陽サッカー場にて、毎年恒例となっている「星槎奥寺カップ」を開催しました。今年も相馬市のチームを中心に、U-10（10歳以下）の子どもたちによる計8チームが参加しましたが、今回は初めて会津や郡山のチームも加わり、より広い地域からの交流が実現しました。

大会はまず、A・Bブロック各4チームに分かれて総当たりのリーグ戦を行い、その後、各ブロックの同順位チーム同士による決定戦を行いました。熱戦の結果、郡山から初出場したチーム「オルケスタ」が、見事優勝に輝きました。また、大会 MVP 選手およびグリーン賞3名も選出され、奥寺康彦さんから一人ひとりに表彰状と記念品が授与されました。

参加した子どもたちは、どの試合も最後まで元気いっぱいにプレーしていました。技術面でも、今の子どもたちはどんどんレベルが上がっていると感じさせられる場面が多くありました。一方で、以前に比べると少しおとなしい子が増えているという印象もあり、奥寺さんをはじめとする指導者のみなさんからは「もっとお互いに声を掛け合おう!」と、技術だけでなくコミュニケーションの大切さについても熱心にアドバイスが送られていました。

例年通り、1日で多くの試合数をこなすハードなスケジュールでしたが、各チームの指導者や保護者の皆様のご協力のおかげで、大きな怪我もなく円滑に進行することができました。大会の最後には、各チーム代表によるPK大会も行われ、子どもたちは大盛り上がりでした。

当財団では、福島県の子どもたちがスポーツを通じて笑顔になり、心身ともに健やかに成長していけるよう、今後もこの活動を継続していきたいと考えています。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。引き続き本プロジェクトを温かく見守っていただければ幸いです。



優勝したチーム「オルケスタ」
おめでとうございます!



白熱した試合が繰り広げられました



皆元気いっぱいに参加しました



ミャンマー大地震支援金をお届けしました ～みなさまの温かいご支援に感謝申し上げます～

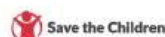
2025年3月28日にミャンマー連邦共和国中部で発生したマグニチュード7.7の大地震により、マンダレーや首都ネピドーをはじめ、各地で甚大な被害が生じました。当財団では、震災直後より募金活動を実施し、星槎グループ内外の皆様、各校舎・事業所での募金活動を通じ、多くの温かいご支援をお寄せいただきました。皆様の深いご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

皆様からお寄せいただいたご寄付に当財団からの支援金を併せ、総額300,000円を国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン」へ贈呈いたしました。今回の贈呈にあたり、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンより現地の詳細な活動状況を伺いました。100年を超える歴史を持つ同団体は、ミャンマーでも長年支援を続けており、今回の震災においても物資・医療支援、こどもたちの心のケア、教育支援など、多角的な支援を展開しています。今回の支援金は、こうした現地の活動に直接活用されます。

改めまして、皆様の多大なるご支援に心より御礼申し上げます。当財団では、今後も国内外の災害等に対し、こどもたちの笑顔を守るための支援を継続してまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンを訪問



感謝状

世界こども財団
の皆さま

この度は、セーブ・ザ・チルドレンの活動を応援いただき、ありがとうございます。お寄せいただきましたご寄付は、ミャンマー・タイ大地震緊急子ども支援として、現地での子どもたちを守る活動に大切に活用させていただきます。

セーブ・ザ・チルドレンは、人道危機における子どもの支援において100年を超える歴史と経験があり、2024年は世界58か国で112件の緊急・人道支援を展開しました。また、ミャンマーでは1995年から、タイでは1979年から活動してきました。

みなさまからのご支援により、緊急に支援を必要としている子どもたちへ、迅速に、必要な支援を届けることができている。みなさまからのあたたかいご支援に、心より感謝申し上げます。

2025年12月

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

募金金額：300,000 円



2025 Myanmar and Thailand Emergency Response

THANK YOU!

感謝状をいただきました

世界のこどもたちの未来づくりのために ご支援をよろしくお願いいたします

事務局より

世界こども財団では、私たちと一緒に世界のこどもたちに手を差し伸べる「仲間」を募っております。

昨年度は350名の個人会員、85社・団体の法人会員・協力企業のみなさまに支えられ、活動を行ってまいりました。

こどもたちの未来をつくる活動に、ぜひご参加ください。

●賛助会員

個人会員 年会費 6,000円 / 一口

法人会員 年会費 120,000円 / 一口

●ご寄付

金額を問わず、随時受け付けております。

●寄付型自動販売機設置のお願い

現在、世界こども財団では各飲料メーカーと提携し、「寄付型自動販売機」を積極的に展開しています。購入頂いた飲み物の売り上げの一部が当財団に寄付される仕組みとなっており、こどもたちの未来へと繋がっています。

自動販売機の設置費用や管理運営等はございません。少しでも興味のある方、設置しても良いという方、是非ともご連絡をお待ちしております。

詳しくは、世界こども財団のホームページ、またはお気軽に事務局までお問い合わせ下さい。



2026年4月発行

公益財団法人
世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2 (星槎グループ内)

TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp

ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索!

制作: 岡村直実 (JC ユニット)

